

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

史学専攻 日本史学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

史学専攻日本史学分野では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、定められた手続きに則った博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（史学）の学位を与える。

1. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で極めて高度な専門知識を有し、日本語や外国語で国内外に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
2. 史学専攻日本史学分野において定められた博士論文執筆資格審査に合格した上で、日本史学もしくはその関連分野の研究を内容とする博士論文を執筆し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
3. 生のデータの信頼性を確認した上で、それら进行分析して論理的妥当性が認められる推論を導き出し、万人の納得を得られるような形でまとめて発表する卓越した能力を身につけるとともに、日本の歴史に対する深い理解を通じて養った、人間の営みと社会の動きに対する幅広い視野と深い洞察力をあわせもつことで、極めて高度なリテラシーを具えた社会人、研究者、教育者として、社会に対する独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

史学専攻日本史学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて学会への独自の貢献をするために必要な、史料批判と史料読解・分析の能力、課題発見能力、議論構成力を養成する目的で、日本語による特殊研究科目を設置し、指導教員が担当する同科目を中心に履修させる。また、これらを通じて、データの質の吟味、実証的な分析・推論、成果のプレゼンテーションなどの卓越した技能の修得を促す。
2. 日本史学ならびに関連分野の領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可

能とするため、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、極めて高度な研究能力と論述力を養う。史学専攻日本史学分野においては、分野が定める「博士論文執筆資格審査に関する内規」に則って博士論文執筆資格審査に合格し、また論文提出までに同「内規」に定められた論文公刊や学会発表の条件を満たしている必要がある。

【アドミッション・ポリシー】

大学院史学専攻日本史学分野後期博士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、日本語でまとめることができる。
3. 日本史の史料を正確に読むことができる分析的な読解力、独創的な学術的論考を緻密に展開できるアカデミック・ライティングの能力を身につけている。
4. 研究成果を発表するための十分な外国語の能力を有している。
5. 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。